

お問合せ先  
OBARA GROUP株式会社  
〒242-0007 神奈川県大和市中央林間3-2-10  
TEL. 046-271-2122

適切に管理された森林からの原料を含むFSC®認証紙と環境に配慮した植物油インキを使用  
しています。



[www.obara-g.com](http://www.obara-g.com)

# OBARA-G REPORT

## 第61期 報告書

2018年10月1日………2019年9月30日

証券コード 6877

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。OBARA GROUPの2019年9月期における事業の概況等をご報告致します。

当期における世界経済は、通商問題の動向や新興国経済の先行き不透明感が懸念されたものの、米国や欧州地域における回復基調の持続から、全体として緩やかな成長で推移しました。

我が国経済につきましては、設備投資や工業生産が概ね横ばいの推移となる中で、個人消費の持ち直しが見られるなど、緩やかな景気回復が続きました。

そのような外部環境の下、溶接機器関連事業は、生産活動が総じて弱含む流れとなった自動車業界へ積極的な販売促進を図り、平面研磨装置関連事業は、堅調な設備投資が行われたエレクトロニクス関連素材への拡販活動に努めました。この結果、親会社株主に帰属する当期純利益が、前期に計上した特別利益の一巡などにより前期を下回ったものの、売上高及び営業利益では、前期を上回る結果となりました。

なお、当社は株主の皆様に対する利益還元を経営上の重要政策として認識しており、2019年5月に48,000株(自己株式を除く発行済株式総数の0.27%)の自己株式を取得するとともに、当期の配当金につきましては、2019年8月26日に公表



の通り、業績が堅調に推移したことなどから、1株当たり期末配当金を当初予想より20円増配の70円とし、年間配当金を110円とする案を2019年12月20日開催の定時株主総会に付議し、決議致しました。

次期も不透明な経済環境が予想されますが、当社と致しましては、引き続き成長市場への経営資源の投入を積極的に推進し、顧客ニーズを満たす製品及びサービスの提供を行うことにより、業績の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、OBARA GROUPへの倍旧のご支援を心よりお願い申し上げます。

2019年12月

取締役社長 小原 康嗣

目次	株主の皆様へ ▶01	セグメント別事業概況 ▶05	主要経営指標の推移 ▶11	会社情報 ▶16	株主メモ ▶18
	営業の概況 ▶03	トピックス ▶09	連結財務データ ▶13	株式情報 ▶17	



連結業績サマリー

(百万円)

	実績			次期(第62期)の見通し	
	前期(第60期)	当期(第61期)	前期比	期初計画	当期比
売上高	51,148	51,727	1.1%	48,000	△7.2%
営業利益	9,319	9,619	3.2%	8,400	△12.7%
経常利益	9,985	10,084	1.0%	8,900	△11.7%
親会社株主に 帰属する当期純利益	8,200	7,476	△8.8%	6,000	△19.8%
1株当たり配当金	110円(年間)	110円(年間)	—	110円(年間)	—

※次期(第62期)の見通しの想定為替レートは、1米ドル=108.50円を前提としております。

当期の連結業績について

当社グループと深く関わる自動車業界では、新興国などで新モデル投入などによる堅調な設備投資が行われる中、生産活動は総じて弱含む流れを示しました。一方、同じく当社グループと深く関わるエレクトロニクス業界では、先端デバイス向けの設備投資が慎重化したものの、エレクトロニクス関連素材では堅調な設備投資が継続しました。

当社グループは、このような経営環境において各市場動向に応じた拡販に努めたことなどにより、親会社株主に帰属する当期純利益が、前期に計上した特別利益の一巡などにより前期を下回ったものの、売上高及び営業利益では、前期を上回る結果となりました。

次期の見通しについて

当社グループと深く関わる自動車業界では、世界経済の緩やかな減速や通商問題の影響懸念などから慎重な設備投資動向が予想されます。また、同じく当社グループと深く関わるエレクトロニクス業界では、先端製品における需給調整の傾向を受け、設備投資については一部先送りの動きも予想されます。

そのような環境下、当社グループとしましては、業績の向上に鋭意注力すべく、成長市場での販売促進を図るとともに、積極的な設備投資と研究開発を行ってまいります。

なお、当連結業績予想は、1米ドル=108.50円の為替レートを前提としています。

## セグメント別事業概況

溶接機器  
関連事業

事業紹介

溶接機器関連事業とは

自動車業界を主要マーケットとする高効率な抵抗溶接機器を製造・販売しています。

自動車が出来るまで

●溶接機器関連事業と関わる自動車の製造プロセス

車体溶接

塗装

ぎ装

完成

出荷



車体溶接の設備

### OBARA GROUP が提供する溶接機器

自動車ボディは薄板鋼板で構成されるため、抵抗溶接という接合工法が採用されています。

抵抗溶接は、接合ポイントに適切な加圧力と溶接電流を与える必要があります。自動車ボディの組立てには、各自動車モデル固有の立体形状に合わせ、個々の接合ポイントにカスタマイズされた溶接機器が設計・製造されます。

私たちは、国内外の自動車メーカーが行う設備増強やモデルチェンジに伴う設備更新に対し、半世紀に亘って培った経験と最先端の設計・生産技術により、最適な抵抗溶接設備を提案します。日々の生産活動に不可欠な消耗品と合わせ、自動車業界のパフォーマンス要望に応えます。

05

## 溶接機器関連事業



溶接ガン

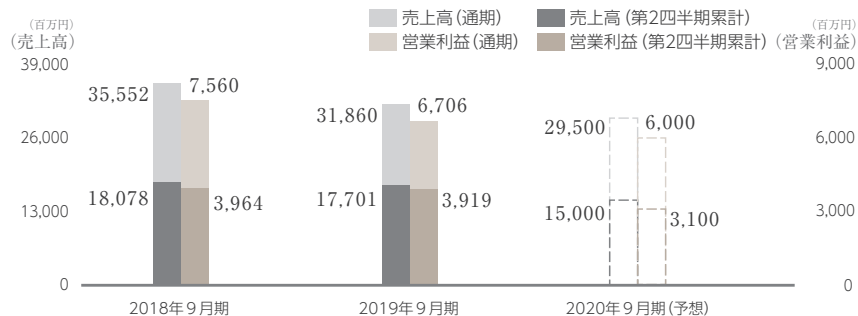
売上高構成比

51,727 百万円……2019年9月期 売上高

平面研削装置関連事業

溶接機器  
関連事業

61.6%



(注) 売上高については、外部顧客に対する売上高を記載しております。

溶接機器関連事業につきましては、取引先である日系・アジア系自動車メーカーにおいて、一部地域で堅調な設備投資が行われたものの、世界各地域で自動車生産が総じて弱含む流れを示しました。

このような環境の下、当事業として設備品及び消耗品の拡販を図ったものの、業績は前期を下回りました。

この結果、当事業の売上高は318億60百万円(前期比10.4%減)、同営業利益は67億6百万円(前期比11.3%減)となりました。

06

## セグメント別事業概況

平面研磨  
装置  
関連事業

事業紹介

平面研磨装置関連事業とは

エレクトロニクス業界を主要マーケットとする精密研磨装置を製造・販売しています。

エレクトロニクス製品が出来るまで

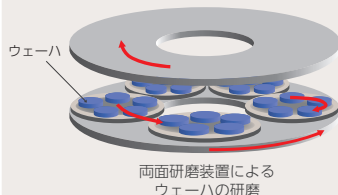
●平面研磨装置関連事業と関わるエレクトロニクス製品の製造プロセス

ウェーハ製造工程  
インゴット引き上げ、切断、  
ウェーハ研磨

半導体デバイス前工程  
成膜、リソグラフィ、  
エッチング等

半導体デバイス後工程  
ダイシング、ボンディング、  
モールドイング等

エレクトロニクス製品組込  
完成した半導体デバイス(チップ)の  
エレクトロニクス製品への搭載

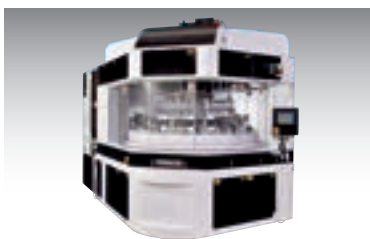


### OBARA GROUP が提供する平面研磨装置

精密加工により製造される先端エレクトロニクス製品は、材料段階で高い面精度を基準平面として要求します。ロジックチップ・メモリーなどの半導体デバイスに用いられるシリコンウェーハ、通信・光デバイス基板、ハードディスク基板など、多様なエレクトロニクス素材の面精度の形成に、ダメージのない微細加工が可能な、遊離砥粒研磨装置が活躍しています。

現代社会を支える各種エレクトロニクス素材の期待水準に、私たちは、ナノオーダー対応の遊離砥粒研磨装置を中心とした精密装置ラインナップで応えます。また、信頼性の高い量産プロセスの確立に必要な、スラリー・研磨パッドなどの消耗副資材も開発・販売しています。

## 平面研磨装置関連事業



両面研磨装置

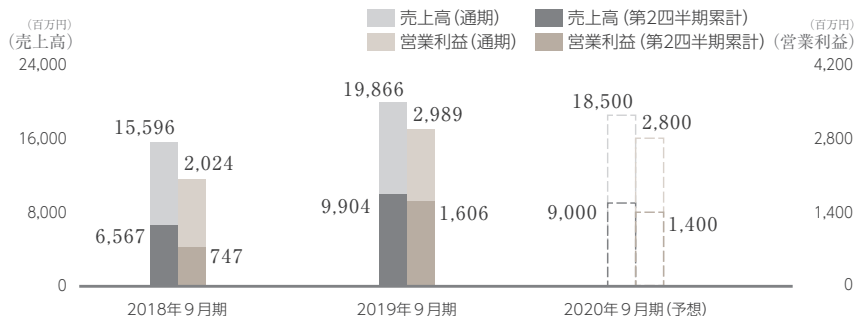
売上高構成品

51,727 百万円……2019年9月期売上高

溶接機器  
関連事業

平面研磨装置関連事業

38.4%



(注) 売上高については、外部顧客に対する売上高を記載しております。

平面研磨装置関連事業につきましては、フラッシュメモリーを中心とした先端製品の需給調整が見られたものの、取引先であるエレクトロニクス関連素材において、堅調な生産活動や設備投資が続きました。

このような環境の下、当事業として設備品及び消耗品の拡販を図ったことなどにより、業績は好調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は198億66百万円(前期比27.4%増)、同営業利益は29億89百万円(前期比47.6%増)となりました。

## トピックス

### 平面研磨装置関連事業／ SEMICON Taiwanに出展

2019年9月、台北(台湾)で開催された半導体製造技術の総合展示会「SEMICON Taiwan」にて、当社グループは、各種エレクトロニクス関連基板の高精度加工に対応した研磨装置・消耗副資材の総合ソリューションを展示しました。SiCやGaNなどの次世代素材や、高周波・極薄水晶ウェーハに対応した最新の研磨装置ラインナップを紹介し、多様な加工物に対する最新の取組みを提案しました。

当社グループは、独創的な製品群のご提供を通じ、常にお客様のご要望にお応えしてまいります。



SEMICON Taiwan 2019

### 平面研磨装置関連事業／ CIOEに出展

当社グループは、2019年9月、深セン(中国)で開催された光通信関連の総合展示会「CIOE」にて、精密研磨装置などを紹介し、化合物半導体ウェーハや水晶・セラミックス・ガラス基板アプリケーションに対する最新の取組みを紹介しました。また、ご来場の方々に対し、豊富な装置ラインナップと各種消耗副資材との組み合わせによる、効果的な製造プロセスについてのプレゼンテーションを行いました。

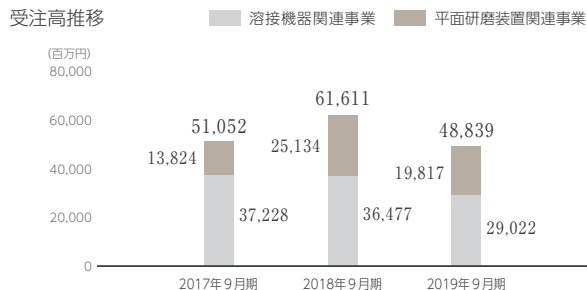
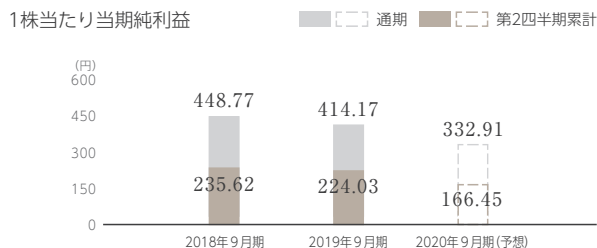
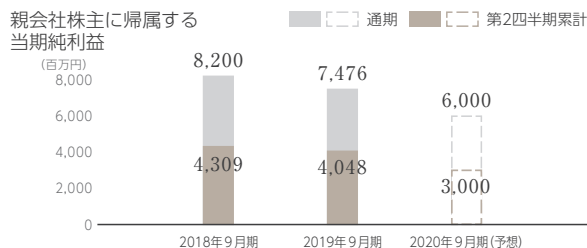
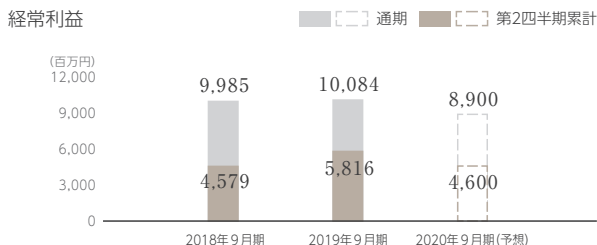
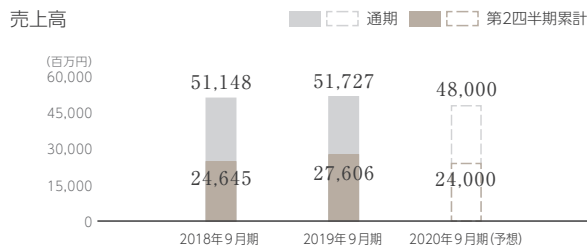
当社グループは、顧客ニーズを具現化する次世代装置など、高付加価値製品の開発に注力してまいります。



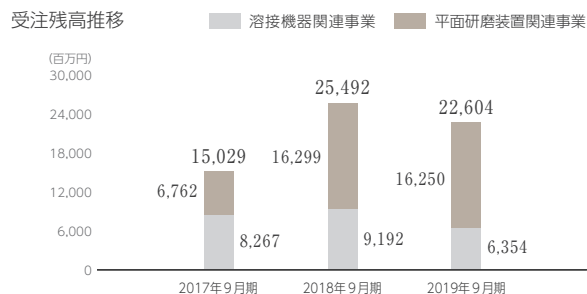
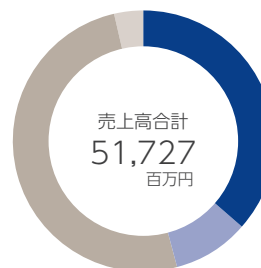
CIOE 2019

## 主要経営指標の推移

詳細情報は当社IRサイトをご覧ください。 <http://www.obara-g.com/jp/ir/library/index.html>



### 地域別売上高構成比

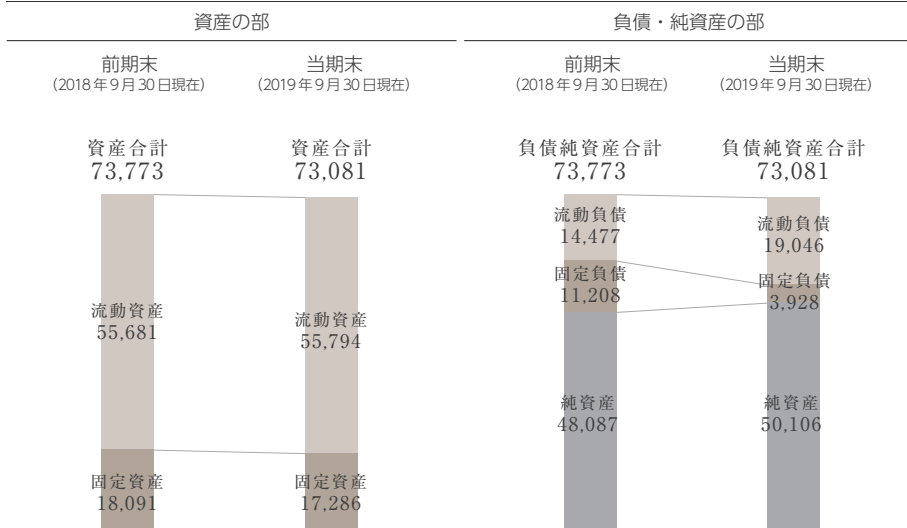


(注) 売上高については、外部顧客に対する売上高を記載しております。



資産・負債・純資産の状況

(単位：百万円)



point  
1

資産負債

総資産は730億81百万円と、前期末に比べて6億91百万円減少しました。

現金及び預金が20億22百万円、電子記録債権が9億73百万円増加した一方、棚卸資産が3億68百万円、受取手形及び売掛金が28億4百万円、無形固定資産が3億45百万円減少したことなどによります。

負債は229億74百万円と、前期末に比べて27億10百万円減少しました。

支払手形及び買掛金が9億37百万円、未払法人税等が5億21百万円、前受金が7億7百万円、その他流動負債が2億74百万円減少したことなどによります。

point  
2

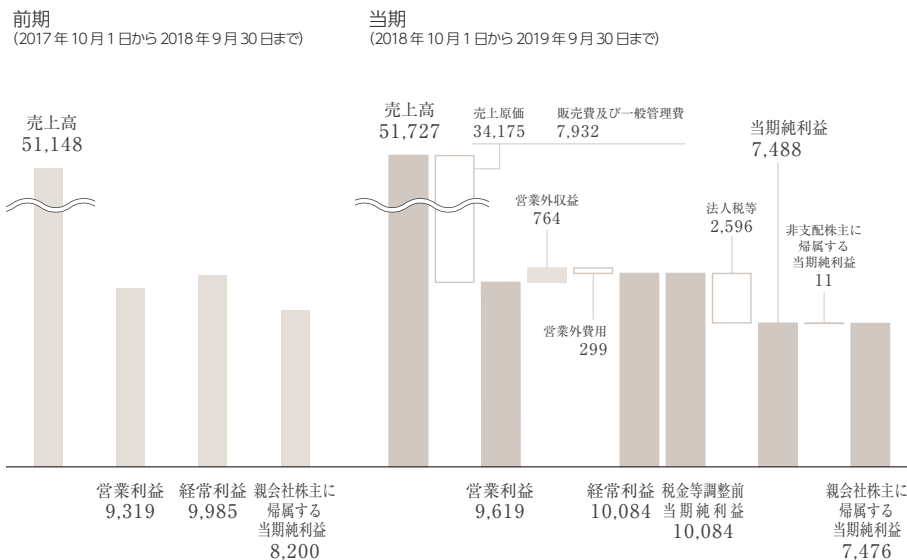
純資産

純資産は501億6百万円と、前期末に比べて20億18百万円増加しました。

為替換算調整勘定により32億29百万円減少した一方、親会社株主に帰属する当期純利益を74億76百万円計上したことなどにより利益剰余金が55億77百万円増加したことなどによります。

損益の状況

(単位：百万円)



point  
3

売上高・営業利益・  
経常利益・親会社株  
主に帰属する当期純利益

連結売上高は、517億27百万円(前期比1.1%増)、営業利益96億19百万円(前期比3.2%増)、経常利益100億84百万円(前期比1.0%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期に計上した一過性の特別利益が一巡したことなどにより、74億76百万円(前期比8.8%減)となりました。

point  
4

営業外収支

受取利息5億31百万円など、営業外収益が7億64百万円となった一方、為替差損2億44百万円など、営業外費用が2億99百万円となりました。

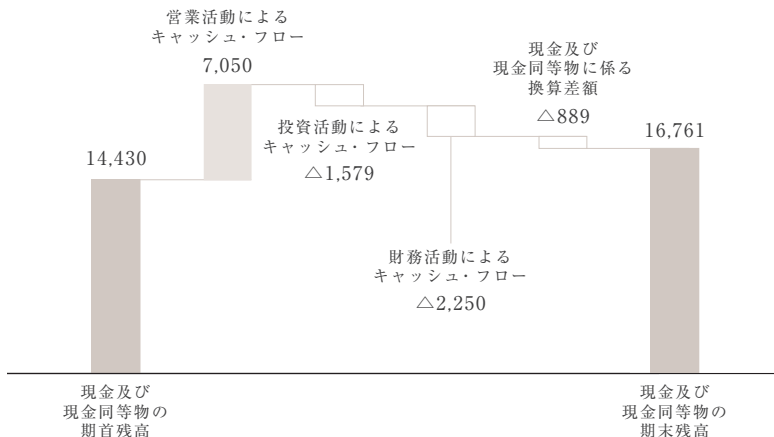


## 連結財務データ

### キャッシュ・フローの状況

当期  
(2018年10月1日から2019年9月30日まで)

(単位：百万円)



point  
5

#### 営業活動による キャッシュ・フロー

営業活動により得られた資金は70億50百万円の増加となりました。

税金等調整前当期純利益が100億84百万円、減価償却費9億97百万円となった一方、法人税等の支払額が31億7百万円発生したことなどによります。

point  
6

#### 投資活動による キャッシュ・フロー

投資活動により支出した資金は15億79百万円の減少となりました。

有形固定資産の取得による支出が13億70百万円発生したことなどによります。

point  
7

#### 財務活動による キャッシュ・フロー

財務活動により支出した資金は22億50百万円の減少となりました。

配当金の支払額が19億86百万円発生したことなどによります。

15

## 会社情報

### 会社概要

(2019年9月30日現在)

商号	OBARA GROUP株式会社
設立	1958年12月
資本金	19億25百万円
従業員数	単体：20名(連結 1,793名)
本社所在地	神奈川県大和市中央林間 3-2-10 046-271-2111(代表)
主な事業	持株会社として、グループ全体の経営戦略の策定・ 推進、グループ経営の監査、その他経営管理
ウェブサイト	<a href="http://www.obara-g.com/">http://www.obara-g.com/</a>

### 役員

(2019年12月20日現在)

取締役社長	小原 康嗣
取締役	小林 憲史
取締役	山下 光久
社外取締役	大西 倫雄*
社外取締役	牧野 宏司*
常勤監査役	高井 清
社外監査役	須山 正志*
社外監査役	高橋 昌子*

\* 証券取引所が定める独立役員として届出を行っております。

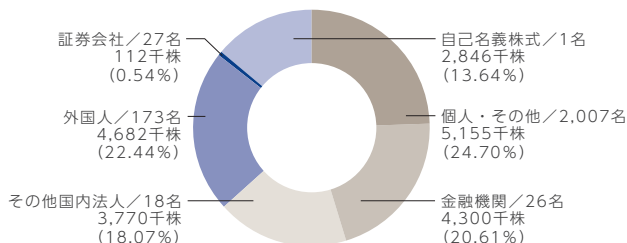
16

## 株式情報 (2019年9月30日現在)

### 株式状況

発行可能株式総数	38,000,000株
発行済株式総数	20,869,380株
単元株式数	100株
株主数	2,252名

### 株主分布状況



### 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
有限会社馬込興産	3,703	20.55
小原 康嗣	2,571	14.26
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口9)	1,138	6.31
JP MORGAN CHASE BANK 385632	947	5.25
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	872	4.84
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	652	3.62
J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 380578	597	3.31
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505253	418	2.32
株式会社三菱UFJ銀行	369	2.05
GOVERNMENT OF NORWAY	362	2.01

(注) 1. 上記のほか、自己株式2,846千株を保有しております。  
2. 持株比率は、自己株式2,846千株を控除して計算しております。  
3. 小原康嗣の持株数は自身の管理分株数1,084千株を加えて表示しております。

### 株主メモ

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月
基準日	定時株主総会の議決権 毎年9月30日 期末配当 毎年9月30日 第2四半期末配当 毎年3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	〒100-8233 東京都千代田区丸の内1-4-1 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内1-4-1 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱所 (郵便物送付先 お問い合わせ先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉2-8-4 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-782-031(フリーダイヤル)
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 全国各本支店

公告方法 当社公告につきましては、下記ウェブサイトに掲載いたします。  
<http://www.obara-g.com/>  
但し、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に公告を掲載いたします。

### 年間IRスケジュール

